

空き缶等散乱状況実態調査の結果

1. 調査方法

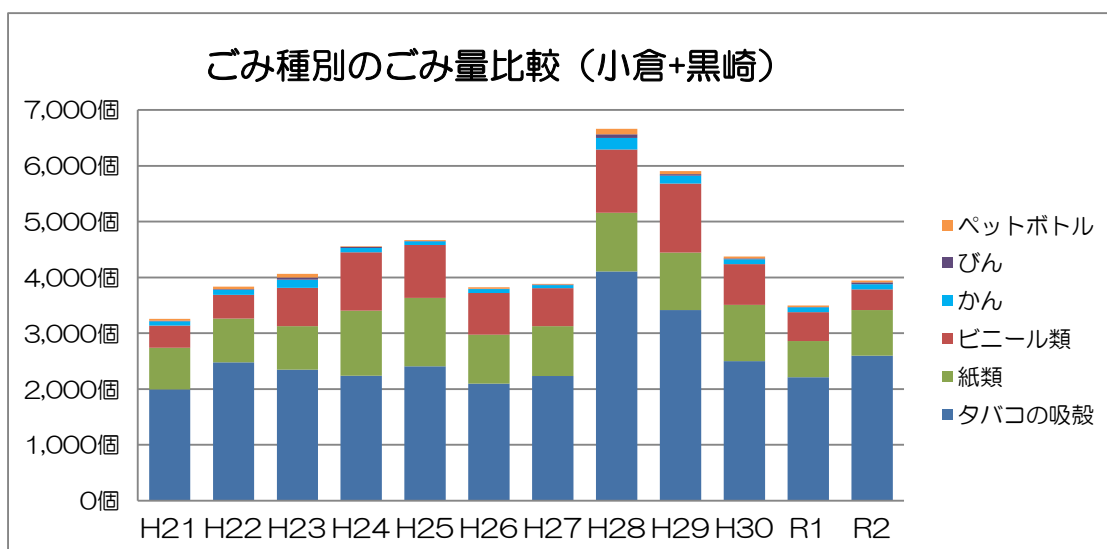
各年度12月、2月の2日間の午前、午後の2回で小倉地区及び黒崎地区にて空き缶等散乱状況調査を実施。収集した散乱ごみを6種類の種別に分類して個数を数えた。（散乱ごみは、タバコの吸殻、紙類、ビニール類、かん、びん、ペットボトルの6種類。）

2. 調査結果

(1) 地区別、ごみ種別によるごみ量の推移（H21～R2）

※地区別（小倉、黒崎）によるごみ個数の推移

	小倉	黒崎	合計
H21	1,419個	1,836個	3,255個
H22	2,038個	1,798個	3,836個
H23	2,043個	2,022個	4,065個
H24	1,773個	2,784個	4,557個
H25	2,408個	2,258個	4,666個
H26	2,284個	1,542個	3,826個
H27	2,417個	1,468個	3,885個
H28	2,770個	3,891個	6,661個
H29	1,755個	4,150個	5,905個
H30	3,177個	1,195個	4,372個
R1	2,546個	953個	3,499個
R2	3,170個	772個	3,942個



(2) 所見

平成21年3月に小倉地区の一部で過料適用開始になった結果、平成21年度はごみ個数が激減した。（平成22年10月に黒崎地区の一部でも過料適用開始。）

それ以降、ごみ個数は比較的低い数値で推移していたが、平成28年度に一旦増加に転じ、平成30年度以降は減少傾向にある。平成27年度以前に対してのごみ量の増加は都心 副都心 清掃事業の廃止も一因として考えられる。

以前に比べるときれいになったと思われる小倉地区や黒崎地区でも、まだまだ多くの散乱ごみが落ちていることがわかる。小倉・黒崎地区共にタバコの吸殻の個数が最も多く、次いで、紙類やビニール類の個数のが多い。

今回の結果を踏まえて、今後、新たな取り組みも視野に入れつつ継続してまち美化啓発活動を推進していきたい。